

広報

しょうぼう

No.28

■令和6年3月31日
■発行 / 里庄町消防団



里庄町消防団 令和6年度 行事予定

4月	入退団式
6月	緊急車両運転講習
8月	夏まつり里庄警備
9月	備中地区若手団員・女性団員情報交換会
11月	消防団訓練・機関員研修会
12月	年末夜警
1月	消防出初式
3月	防火パレード・救助用資機材研修会

- その他
- ① 毎月第1日曜日に無線テストを実施
 - ② 各部において小型ポンプ操作、放水訓練など

随時 災害出動

所属分館

- 本部 —— 町内全域
- 第1部 —— 浜中全地区
- 第2部 —— 西ノ平・ハツ的・グリーンクレスト
- 第3部 —— 狭田・宮地
- 第4部 —— 才申
- 第5部 —— 大原中・大原西
- 第6部 —— 殿迫・松尾・手ノ際
- 第7部 —— 本村
- 第8部 —— 土井・林・古井
- 第9部 —— 岩村・津江
- 第10部 —— 川南・干瓜・堂迫・金山・駅前
- 第11部 —— 大原東・明地
- 第12部 —— 安広・西平井・東平井・南平井
- 第13部 —— 高岡・屋中

安全・確実・迅速な消火を目指して

～林野火災訓練～

令和5年10月22日(日)、従来実施していた操法訓練大会に代わり、消防団各部の相互連携や、団員の実践的な技術の習得を目的に、林野火災訓練を実施しました。この訓練では、『つばきの丘運動公園の遊歩道で、不用意に投げ捨てたたばこの火が落ち葉に着火して山林へと燃え



移り、更に強風に煽られ、飛び火して延焼拡大した。』と想定し、川崎団長の指揮の下、第1次出動として①【第4部-第8部-第12部】隊と②【第10部-第2部-第13部】隊の2隊が公園内の憩いのため池を水利に、第2次出動として③【第1部-第6部-第9部-11部】隊が公園西側の茅原池、④【本部-第5部-第7部-第3部】隊が公園南側の辺々下池を水利に、それぞれホースを展張して中継地点でポンプを連結し、高低差による減圧(水の勢いが弱くなること)を防ぎながら、消火活動に当たりました。訓練に参加した団員は、安全・確実・迅速な消火活動ができるよう、各々の役割を考えて真剣に訓練に取り組み、訓練後の振り返りでは、「(団歴が浅いので)実際の火災に近い訓練ができ、勉強になった。」「資機材の故障等、不測の事態への対応は、その場で柔軟に判断することができた。」「資機材の取扱い技術や無線のやりとりで課題が見えたので改善したい。」と今後に活かす前向きな意見が多く発言されました。



火災予防の徹底を 呼び掛け



～防火パレード～

令和5年11月12日(日)と令和6年3月3日(日)に、消防団幹部、各部団員、婦人防火クラブ役員が、全国一斉火災予防運動に合わせて、町内全域を巡回して火災予防を呼び掛ける防火パレードを実施しました。

パレードでは、里庄町役場前駐車場で出発式を行った後、それぞれ消防車両に乗車し、11月は西回り、3月は東回りのルートで、火の取扱いの注意喚起や住宅用火災警報器設置の大切さなどを呼び掛けました。



ポンプの構造を さらに詳しく！

～機関員研修～



令和5年11月12日(日)、福社会館大ホールおよび役場北側駐車場で、小型動力消防ポンプを使用した機関員研修を実施しました。この研修では、単に災害発生時にポンプを使用するだけでなく、その構造を熟知し、平時の維持管理や不調時の応急対応など、幅広く知識や技術を習得することを目的として実施され、研修に参加した団員は、笠岡地区消防組合鴨方消防署の職員指導のもと、熱心に話を聞き、その見聞を深めました。

災害に備えて ～消防資機材整備事業～



里庄町は、令和5年度事業として、一般財団法人自治総合センターが宝くじの受託事業収入を財源として実施しているコミュニティ助成事業を利用し、セル付きの小型動力消防ポンプを1台導入しました。このポンプは、従来のリコイル式のものに比べて起動が容易な構造になっており、今後のより迅速・確実な消火活動のために活用される予定です。

大規模災害時に 動けるように

～救助用資機材研修～



令和6年3月3日(日)、笠岡地区消防組合鴨方消防署の訓練場で、エンジンカッター、チェーンソー、油圧コンビツールなどの救助用資機材を使用した研修を実施しました。この研修は、万一の大規模災害が発生したときに、消防団員が救助用資機材を使用して救助活動に取り組めるよう、資機材の取扱いに必要な知識や技術を習得することを目的とし、研修に参加した団員は、笠岡地区消防組合鴨方消防署の職員指導のもと、実際に自動車や木材を圧縮・切断するなど、実践形式で資機材の取扱方法を学びました。また、身近な道具を使用し、重量物に挟まれて動けない人の救助訓練も併せて行いました。



決意を新たに

～里庄町消防出初式～



令和6年1月21日(日)、里庄総合文化ホール「フロイデ」電動中ホールで里庄町消防出初式を厳粛に挙行了しました。

式中では、出席した消防関係者一同が、改めて消防職務の重要性を認識し、結束を誓いました。また、小笠原副団長が「このたびの令和六年能登半島地震により被災された方々に心よりお見舞い申し上げ、一日も早い生活基盤の復旧と、被災地の復興をお祈り申し上げます。里庄町消防団員・婦人防火クラブ員の皆様におかれましては、突然

に発生し、我々の日常生活を一変させる自然災害に対して少しでも対抗できるよう、地域防災の第一線として、近所の方と良好な関係を築き、安心・安全な町づくりのため、より一層の御尽力をお願いしたい。」と訓辞を代読し、その後は、これまでの消防活動において功績のあった消防団員に表彰状が授与されました。



街を守る、次世代のヒーロー&ヒロイン、待っています!!



里庄町 消防団員募集



『消防団について』

消防団は、消防組織法に基づき、全国の各市町村に設置されている組織です。消防団員は、他に本業を持ちながら、権限と責任を有する非常勤特別職の公務員として、非常時に町民の生命・財産を守る地域防災活動の重要な役割を担っています。

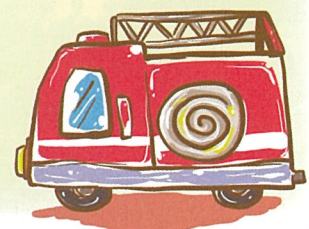
しかしながら、全国的に団員の減少や高齢化が年々進んでおり、里庄町でも「自分たちの地域は自分たちで守る」という精神に基づき、消防防災活動に取り組んでいただける消防団員を募集しています。詳しくは、里庄町総務課またはお住まいの地区の消防団員にお尋ねください。

『消防団の活動について』

消防団の活動は、火災や風水害などの災害出動だけにとどまらず、資機材や消火・防災に関する訓練、警備や火災予防啓発など、多岐にわたります。

『各種制度について』(令和6年3月31日現在)

- ・消防団員には、階級に基づく報酬と、出動時の費用弁償が支給されます。
- ・活動中に負傷してしまった場合は、公務災害補償が適用されます。
- ・活動で使用した自家用車に損害が発生した場合や7日以上入院が発生した場合には、それぞれ見舞金が支給されます。
- ・消防個人年金に加入できます(加入するかどうかは任意です)。
- ・5年以上職務に携わって退職した消防団員には、退職報償金が支給されます。



里庄駅前防火PR活動

住宅用火災警報器の 設置と維持管理を!

令和5年11月9日(木)、里庄駅前において、里庄町消防団の女性消防団員と笠岡地区消防組合の職員が合同で防火PR活動を行いました。この活動は、秋季全国一斉火災予防運動に合わせて実施し、駅の利用者に啓発資材を配りながら、大切な生命と財産を守るためにも、住宅用火災警報器を正しく設置し、維持管理するよう呼びかけました。

火あそびはしません!

～東・西幼稚園幼年消防クラブ～



令和5年10月31日(火)、東幼稚園児と西幼稚園児による幼年消防クラブを実施しました。

園児たちは、「わたしたちはぜったいにひあそびはしません!」と防火の誓いを元氣よく

宣言し、消防団の川崎団長や婦人防火クラブの小野会長、笠岡地区消防組合鴨方消防署の職員の話真剣に聞いていました。その後は、防火服を着て記念撮影をしたり、ポンプ車や救助工作車の見学、放水体験などをしながら、楽しく消防のことについて学んでいました。



広域防災センターで体験学習 ～婦人防火クラブ視察研修～

令和5年7月30日(日)、兵庫県広域防災センターにおいて、婦人防火クラブの研修を実施しました。研修では、阪神淡路大震災で実際に救助活動を行った消防士OBの方の講話を受けた後、起震車による震度7の地震体験、加熱された水蒸気が充満した室内を避難する体験などを行い、参加したクラブ員からは「起震車は構えていても立っていられなかった。実際に地震が起きたあと、避難できるだろうか。」「熱された空間の恐ろしさを感じた。蒸気や煙で前が見えず、想像以上に熱い。パニックにならない自信がない。」など、研修後には『災害前に備えること』が大切という意見が多数あがりました。また、研修を通してクラブ員相互のつながりも深めることができました。



婦人防火クラブ

婦防会長のことば 会長 小野 妙子

里庄町婦人防火クラブは、『家庭から火を出さない』を合言葉に、初期消火や防火防災の普及啓発活動を実施し、火災予防に取り組んでいます。令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行したこともあり、実に4年ぶりに県外の防災施設に赴くことができ、最新機材や技術を活用した研修・体験活動も実施することができました。また、縮小して実施していた秋季・春季全国一斉火災予防週間に合わせた防火パレード、産業文化祭での防火啓発活動、消防団林野火災訓練の見学、年末夜警なども、積極的に行うことができました。

一方で、コロナ禍が明けても継続している全国的な物価高や、元旦に発生し、現地の方を中心に多大な被害を与えた能登半島地震など、私たちの生活を脅かす出来事はなくなることなく、災害はいつ発生するか分からないことを実感いたしました。私たちは、困難が続く中でも、地域の中でお互いに関係を築き、

自分たちにできることを考え、また、防火防災の知恵を次の世代に伝えていくことが使命であると思います。

クラブ員の皆様におかれましては、平素からお忙しい中、各分館から選任されて、御協力をいただいておりますが、今後の活動についても、ぜひとも積極的なご参加をお願いし、ご家族に、地域の方々に、輪を広めて火災予防・防災減災に努めて参りましょう。



主な活動実績

4月	総会	12月	年末夜警
7月	視察研修 (兵庫県広域防災センター)	1月	町消防出初式
10月	消防団林野火災訓練見学	3月	春の防火パレード
11月	火災予防啓発活動 (産業文化祭) 秋の防火パレード		